

質問

通学時のバス停の環境整備は

町長

町の交付金を活用した事例も



おちあい 落合 孝行 議員



統合した仁多小学校に通学する児童たち

質問

現在の各小学校の児童数は。そのうち、バス通学をしている児童の割合は。

教育長 児童数は仁多小学校が248名、横田小学校が158名。そのう

ち、バス通学をしている

のは仁多小学校が167名で67・3%、横田小学校が73名で45・6%。

質問

現在の児童の主な乗降場所となっているバス停数は。

教育長 仁多小学校区で40か所。横田小学校区で35か所。

質問

児童のバス待機場所における暑さや雨・雪対策について、町の現状認識は。

教育長 乗車のおおむね5分前にバス停に到着するよう伝えてあり、保護者と相談して冬季の乗降場所を変更する等の対応を行っている。ほとんどの児童が統合前に徒歩通学していた距離に比べて歩行距離が短くなっており、バス通学での雨や雪による負担や不快感は増していないと考えている。

町長

停留所を設置できる場所が限られ、年ごとに児童の乗降場所が変わっていく。待ち時間も考慮した上で設置する考えはない。実態として自治会等で町のふるさとづくり交付金を活用してバス停整備の対応を頂いている所もある。各地区の主要な乗降ポイントは今後、地域と検討していく。

質問

保護者や自治会からも要望が多く出ている中で、改めて町としてバス停の屋根の設置等の環境整備を行う考えは。

況も確認済み。本年も積雪時には再度巡視することとを計画している。